



Copyright © 2025 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
- 3. IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Spring からの変更点
- 4. 機能一覧
- 5. システム要件
- 6. 検証済み環境
- 7. 制限事項
- 8. 保証規程
- 9. 著作権および特記事項

改訂情報

変更年月日	変更内容
2025-10-01	初版
2025-12-19	第2版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none">■ 「サーバ要件」■ 「intra-mart Accel Platform」に Red Hat Enterprise Linux 10.x がサポート対象外である記述を追加■ 「HTML→PDF変換」に Red Hat Enterprise Linux 10.x がサポート対象外である注意を追加

はじめに

本書の内容

本書では IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のリリース内容について記載されています。

製品の利用対象

次の利用を対象としています。

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を利用したアプリケーション開発

本書に記載されている外部サイトのURL

本書で記載されている外部URLは、 2025-10-01 現在のものです。

連携エンジン

PDFコンバータXP

Office系のファイルをPDFファイルへ変換するために必要なソフトウェアです。

PDFオートコンバータEX

Office系のファイルのPDF変換を自動化するために必要なソフトウェアです。

HTMLtoPDF

HTMLファイルをPDFファイルへ変換するために必要なソフトウェアです。

スタンドアローン構成と分散構成

本書におけるスタンドアローン構成と分散構成は次の構成を指します。

スタンドアローン構成

intra-mart Accel Platform と同じサーバに連携エンジンを導入する構成です。 (IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の Office系→PDF変換 は、 分散構成のみサポートしています。)

分散構成

intra-mart Accel Platform とは別のサーバ (PDF変換サーバ) に連携エンジンを導入する構成です。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Spring

からの変更点

追加機能概要

- 変更された機能はありません。

システム要件

- サーバ要件
 - intra-mart Accel Platform
 - intra-mart Accel Platform 2025 Spring -> 2025 Autumn に変更しました。
 - PDF変換サーバ
 - Windows Server 2025 日本語版（64bit）を追加しました。

検証済み環境

- サーバ環境
 - Windows Server 2022 日本語版 -> 2025 日本語版に変更しました。
 - Red Hat Enterprise Linux 9.4 を削除しました。
 - Amazon Linux 2023 を追加しました。
 - Tomcat 9.0.96 -> 9.0.106 に変更しました。
 - PDFオートコンバータEX 5.0.1 -> 5.0.2 に変更しました。
 - PDFコンバータXP 7.0.3 -> 7.0.5 に変更しました。

制限事項

【追加された制限事項】

- 「[Office系→PDF変換](#)」
 - 「[クラウド環境にPDF変換サーバを構築する場合、注意事項があります](#)」
- 「[HTML→PDF変換](#)」
 - 「[setTimeoutSec\(timeoutSec\)は、API呼び出し側が待機する時間として設定してください](#)」

【変更された制限事項】

- 「Office系→PDF変換 のサポートするファイル形式」
 - Microsoft Office 2024 を追加しました。
 - 一太郎 2019、2020、2021 を削除し、2023、2024 を追加しました。

【削除された制限事項】

- 削除された制限事項はありません。

機能一覧

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform に含まれる機能の一覧です。

機能	機能概要
Office系→PDF変換	特定の形式のファイルをPDFファイルに変換します。この機能はAPIで提供されます。 変換対象のファイル形式については、「 Office系→PDF変換 のサポートするファイル形式 」を参照してください。
HTML→PDF変換	intra-mart Accel Platform の画面（HTMLファイル）をPDFファイルに変換します。この機能はAPIで提供されます。

機能ごとにPDF変換の仕組みが異なるため、次のようにシステム要件や対応する構成が異なります。

	Office系→PDF変換	HTML→PDF変換
構成	分散構成 のみ	スタンドアローン構成 分散構成
サーバOS	Windowsのみ	Windows Linux
連携エンジン	PDFオートコンバータEX PDFコンバータXP	HTMLtoPDF



コラム

各機能を併用して利用することも可能です。



注意

システム要件の詳細については「[システム要件](#)」を参照してください。



注意

各機能の制限事項については「[制限事項](#)」を参照してください。

システム要件

当バージョンにおけるシステム要件は次の通りです。

サーバ要件

intra-mart Accel Platform

- intra-mart Accel Platform 2025 Autumn （ Standard Edition 、 Advanced Edition 、 Enterprise Edition 、 Basic Edition 、 Advance Edition 、 Professional Edition ）
- 利用する intra-mart Accel Platform の [サーバ要件](#) に準じます。 （ スタンドアローン構成 で構築する場合、 Red Hat Enterprise Linux は10.xを除く。また、 Windows Server は日本語版に限る。）



注意

intra-mart Accel Platform を [スタンドアローン構成](#) で構築する場合、 Red Hat Enterprise Linux 10.xでの構築はサポートしません。

また、 Windows Server は、日本語版のみサポート対象となります。



注意

HTML→PDF変換 を利用する場合、 intra-mart Accel Platform （ [スタンドアローン構成](#) ）には、 連携エンジン HTMLtoPDF が必要です。

そのため、連携エンジンを動作させるための要件が、サーバ要件に追加となります。

追加となる要件については「 [追加で必要なメモリ容量・ディスク容量について](#) 」を参照してください。



注意

Linux 環境にて HTML→PDF変換 を利用する場合、 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールしているサーバに Xvfb をインストールする必要があります。

詳細については「 [Linux 環境では、サーバに Xvfb をインストールする必要があります](#) 」を参照してください。



注意

次のバージョンは必ず正しい組み合わせで運用してください。

異なる組み合わせはサポート対象外です。

- intra-mart Accel Platform のバージョン
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のバージョン
- 連携エンジン PDFオートコンバータEX のバージョン
- 連携エンジン PDFコンバータXP のバージョン
- 連携エンジン HTMLtoPDF のバージョン

連携エンジンの詳細なバージョンについては、「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform セットアップガイド](#)」 - 「[連携エンジンバージョン](#)」を参照してください。

PDF変換サーバ

PDF変換サーバは、Office系→PDF変換とHTML→PDF変換とでサーバ要件が異なります。

機能ごとのサーバ要件は、次の通りです。

Office系→PDF変換

種別	製品名
OS	Windows Server 2016 日本語版 (64bit)
	Windows Server 2019 日本語版 (64bit)
	Windows Server 2022 日本語版 (64bit)
	Windows Server 2025 日本語版 (64bit)
ハードウェア	各OSの安定稼動が可能となるPC (CPU 3GHz以上を推奨)
必要メモリ容量 (JVM)	推奨する最小構成 2GB 以上

種別	製品名
JDK	Oracle JDK 8
	Oracle JDK 11
	Oracle JDK 17
	Oracle JDK 21
	OpenJDK 17
	OpenJDK 21
	Amazon Corretto 11
	Amazon Corretto 17
	Amazon Corretto 21
Web Application Server	Apache Tomcat 9.0.x
PDF変換に必要なソフトウェア	Officeファイル Microsoft Office 一太郎ファイル 一太郎 DocuWorksファイル DocuWorks
	PDF対象ファイルについては「 Office系→PDF変換 のサポートするファイル形式 」を参照ください。



注意

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の Office系→PDF変換 は、[分散構成](#)のみサポートしています。

運用には PDF変換サーバ が必要です。

また、 PDF変換サーバ を複数台設置することで、負荷分散（ラウンドロビン方式）が可能です。



注意

PDF変換サーバ で使用するJDKのバージョンは、 intra-mart Accel Platform で使用する JDKのバージョンと揃えてください。



注意

Apache Tomcat は、上記システム要件の、最新のマイナーバージョンを使用してください。



注意

Office系→PDF変換 を利用する場合、 PDF変換サーバ（[分散構成](#)）には、連携エンジン PDFオートコンバータEX、および、連携エンジン PDFコンバータXP が必要です。

そのため、連携エンジンを動作させるための要件が、サーバ要件に追加となります。

追加となる要件については「[追加で必要なメモリ容量・ディスク容量について](#)」を参照してください。



注意

Office系→PDF変換 には、変換対象とするファイルに対応したアプリケーションが PDF変換サーバにインストールされている必要があります。

詳細については、「[Office系→PDF変換 には変換対象とするファイルに対応したアプリケーションが必要です](#)」を参照してください。



注意

PDF変換サーバをクラウド環境で構築する場合、事前に「[intra-mart サポートサイト](#)」へ問い合わせしてください。

クラウド上のサーバに Microsoft Office 製品をインストールすることは、Microsoft 社に許諾されない可能性があります。

構築環境にインストール可能か Microsoft 社にライセンス契約の確認が必要です。

お客様の Microsoft Office のライセンス状況に依存するため、お客様から Microsoft の営業担当者に確認をお願いしています。

お客様のフォローを行うため、上記サポートサイトに連絡してください。

HTML→PDF変換

種別

製品名

種別	製品名
OS	Windows Server 2016 日本語版 (64bit) Windows Server 2019 日本語版 (64bit) Windows Server 2022 日本語版 (64bit) Windows Server 2025 日本語版 (64bit) Red Hat Enterprise Linux 8.x (64bit) Red Hat Enterprise Linux 9.x (64bit) Amazon Linux 2 Amazon Linux 2023
ハードウェア	各OSの安定稼動が可能となるPC (CPU 3GHz以上を推奨)
クラウドサービス	Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) Microsoft Azure Virtual Machines Oracle Cloud Infrastructure Compute
必要メモリ容量 (JVM)	推奨する最小構成 2GB 以上
JDK	Oracle JDK 8 Oracle JDK 11 Oracle JDK 17 Oracle JDK 21 OpenJDK 17 OpenJDK 21 Amazon Corretto 11 Amazon Corretto 17 Amazon Corretto 21

種別	製品名
----	-----

Web Application Server	Apache Tomcat 9.0.x
------------------------	---------------------



注意

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の HTML→PDF変換 は、[スタンドアローン構成](#)、および、[分散構成](#)をサポートしています。

分散構成の運用には PDF変換サーバ が必要です。



注意

HTML→PDF変換 の PDF変換サーバ では、 Red Hat Enterprise Linux 10.xでの構築をサポートしていません。



注意

PDF変換サーバ で使用するJDKのバージョンは、 intra-mart Accel Platform で使用する JDKのバージョンと揃えてください。



注意

Apache Tomcat は、上記システム要件の、最新のマイナーバージョンを使用してください。



注意

HTML→PDF変換 を利用する場合、 PDF変換サーバ （[分散構成](#)）には、 連携エンジン HTMLtoPDF が必要です。

そのため、連携エンジンを動作させるための要件が、サーバ要件に追加となります。

追加となる要件については「[追加で必要なメモリ容量・ディスク容量について](#)」を参照してください。

追加で必要なメモリ容量・ディスク容量について

連携エンジンを動作させるために、対象サーバにメモリ容量、および、ディスク容量が追加で必要です。

必要な容量については、次の通りです。

- 連携エンジン PDFオートコンバータEX + 連携エンジン PDFコンバータXP

種別	製品名
----	-----

必要メモリ容量（連携エンジン）	8GB以上
-----------------	-------

種別	製品名
必要ディスク容量（連携エンジン）	次の合計値 <ul style="list-style-type: none"> ■ 20GB以上 ■ 一時ファイルを作成するために必要な空きディスク容量

■ 連携エンジン HTMLtoPDF

種別	製品名
必要メモリ容量（連携エンジン）	(同時起動数 × 0.3) + 0.2 GB以上
必要ディスク容量（連携エンジン）	次の合計値 <ul style="list-style-type: none"> ■ 10GB以上（PDF変換サーバの場合は20GB以上） ■ 一時ファイルを作成するために必要な空きディスク容量



注意

同時起動数の上限値によって必要なメモリ容量が変動します。

- 同時起動数が1の場合：0.5GB以上
- 同時起動数が2の場合：0.8GB以上
- 同時起動数が3の場合：1.1GB以上



注意

帳票を大量出力する案件の場合は、処理量に応じてメモリ容量を追加してください。



注意

一時ファイルを作成するために必要な空きディスク容量は、ファイルの大きさや利用頻度によって異なります。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、次の一時ディレクトリを使用します。

- OSの一時ディレクトリ
- Javaの一時ディレクトリ (java.io.tmpdir)
- intra-mart Accel Platform の一時ディレクトリ

一時ディレクトリの空き容量が不足している場合、PDFファイルの出力に失敗する可能性があります。

ライセンス要件

- PDF変換サーバ 単位でライセンスが必要です。
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の1ライセンスには、次のライセンスがそれぞれ1ライセンスずつ含まれます。

ライセンス名	概要
PDFオートコンバータEX ライセンス	PDFオートコンバータEX（連携エンジン）を導入するために必要なライセンスです。
PDFコンバータXP ライセンス	PDFコンバータXP（連携エンジン）を導入するために必要なライセンスです。

検証済み環境

以下、弊社動作検証済みの組み合わせです。

サーバ環境

スタンドアローン構成

- intra-mart Accel Platform : 2025 Autumn(Lilac)
- Web Application Server : Resin 4.0.67
- 連携エンジン : HTMLtoPDF 1.0.1 Windows版／HTMLtoPDF 1.0.1 Linux版

環境パターン	OS	JDK
[1]	Windows Server 2025 日本語版	Oracle JDK 8u361
[2]	Amazon Linux 2023	OpenJDK 21.0.5

分散構成

intra-mart Accel Platform

- intra-mart Accel Platform : 2025 Autumn(Lilac)
- Web Application Server : Resin 4.0.67

環境パターン	OS	JDK
[1]	Windows Server 2025 日本語版	Oracle JDK 8u361
[2]	Amazon Linux 2023	OpenJDK 21.0.5

PDF変換サーバ (Office系→PDF変換)

- Web Application Server : Tomcat 9.0.106
- 連携エンジン : PDFオートコンバータEX 5.0.2／PDFコンバータXP 7.0.5

環境パターン	OS	JDK
[1]	Windows Server 2025 日本語版	Oracle JDK 8u361
[2]		Oracle JDK 21.0.4

- Web Application Server : Tomcat 9.0.106
- 連携エンジン : HTMLtoPDF 1.0.1 Windows版／HTMLtoPDF 1.0.1 Linux版

環境パターン	OS	JDK
[1]	Windows Server 2025 日本語版	Oracle JDK 8u361
[2]	Amazon Linux 2023	OpenJDK 21.0.5

制限事項

全般

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の起動ユーザには管理者権限が必要です

PDF変換サーバ、 Apache Tomcat、 および、 各アプリケーションの起動ユーザに、 管理者権限を保有するユーザを設定してください。

ウイルスソフトがPDF変換を妨げる可能性があります

ウイルスソフトが、 PDF変換中のファイルを排他制御することがあります。

そのような場合は、 PDF変換の使用エリアをウイルスチェックの対象から外してください。

プロキシサーバを経由してPDF変換を実施することはできません

intra-mart Accel Platform と PDF変換サーバ 間の通信において、 プロキシサーバを経由してPDF変換を実施することはできません。

プロキシサーバを設定している環境下では、 intra-mart Accel Platform と PDF変換サーバ 間の通信において、 プロキシサーバを経由しないよう設定してください。

リモートデスクトップ環境ではPDF変換できません

PDF変換は、 リモートデスクトップを利用した環境では正常に動作しません。

リモートデスクトップ環境とは別に PDF変換サーバ を設置してください。



コラム

メンテナンス等の一時的なリモートアクセスであれば問題ありません。

シンクライアント環境ではPDF変換できません

PDF変換は、 シンクライアント製品（Citrix XenApp 等）を利用した環境では正常に動作しません。

シンクライアントサーバとは別に PDF変換サーバ を設置してください。

機能ごとに環境が異なるため、 セットアップ手順に注意してください

Office系→PDF変換 と HTML→PDF変換 では、 PDF変換の仕組みや環境が異なります。

機能ごとにセットアップ手順が異なるため、 セットアップを行う際は「[IM-PDFAutoConverter for](#)

「Accel Platform セットアップガイド」 - 「セットアップの流れ」に沿って、セットアップを行ってください。

Office系→PDF変換

PDFオートコンバータEX のインストール時に .NET Framework 3.5 が必要です

PDFオートコンバータEX を PDF変換サーバ にインストールする際には、.NET Framework 3.5 が必要です。

IM-PDFCoordinator for Accel Platform を同一サーバに設置する場合、連携エンジンの環境変数の設定順序に注意してください

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform と IM-PDFCoordinator for Accel Platform を同一サーバに設置する場合、インストールしている連携エンジンの環境変数の設定順序に注意してください。

IM-PDFCoordinator for Accel Platform を導入している場合、インストールしている 連携エンジン PDFマイクアップ の環境変数より、連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境変数が後になるよう設定してください。

正しい順序で設定をしていない場合、エラーが発生します。

Office系→PDF変換 には変換対象とするファイルに対応したアプリケーションが必要です

Office系→PDF変換 には、変換対象とするファイルに対応したアプリケーションが PDF変換サーバ にインストールされている必要があります。

対応アプリケーションについては、「[Office系→PDF変換 のサポートするファイル形式](#)」を参照してください。



コラム

各製品は最新のパッチを適用してください。



コラム

画像ファイルを変換対象とする場合、対応したアプリケーションのインストールは不要です。



注意

Microsoft Office 製品は、Service Pack 1 以上のインストールが必須です。

また、OSのビット数に対応したアプリケーションをインストールしてください。



注意

クラウド上のサーバに Microsoft Office 製品をインストールすることは、Microsoft 社に許諾されない可能性があります。

構築環境にインストール可能かライセンス契約を確認してください。



注意

一太郎 を変換対象とする場合、一太郎ビューア でのPDF変換はできません。

必ず、一太郎 をインストールしてください。

また、一太郎 にはサーバインストールできないバージョンが存在します。必ず、購入前に確認してください。



注意

DocuWorks を変換対象とする場合、DocuWorks Viewer Light でのPDF変換はできません。

必ず、DocuWorks をインストールしてください。



注意

対象アプリケーションをインストールする際は、構築環境にインストール可能かアプリケーションのライセンス契約を確認してください。

Office系→PDF変換 のサポートするファイル形式

Office系→PDF変換 のサポートする変換対象ファイルの形式とアプリケーションのバージョンは、次の通りです。

製品名	バージョン	ファイル形式
Microsoft Excel	2016、2019、2021、2024	XLS、XLSX
Microsoft Word	2016、2019、2021、2024	DOC、DOCX
Microsoft PowerPoint	2016、2019、2021、2024	PPT、PPTX
一太郎	2023、2024	JTD、JTT
DocuWorks	8.x、9.x	XDW
テキストファイル	—	TXT
画像ファイル	—	TIFF (G3/G4)、 JPEG (RGB)、BMP、GIF、 PNG



注意

Microsoft Office 製品でマクロを含むファイルは、マクロの内容によってPDF変換できないケースがあります。



注意

TIFFファイルは、圧縮方法によってPDF変換できないケースがあります。



注意

一太郎 のPDF変換には、次の制限事項があります。

- サービス変換、または、バックグラウンド変換ができないファイルが存在する可能性があります。

その場合は、次のいずれかの対応をしてください。

- 一太郎 にて、ファイルを作成する際にオブジェクトを制限してください。
- 一太郎 にて、ファイルを作成する際にフロント変換（コマンド等）で作成してください。
- PDF変換サーバ にログオンした状態でPDF変換を実施してください。
- Microsoft IMEとATOKがPDF変換の動作に影響を及ぼす場合があります。その場合、一太郎 変換専用のサーバが必要です。
- 変換対象ファイルのPDF変換対応状況は、次の通りです。

PDF変換		
ファイルの種類	可否	備考
一太郎 のノーマルファイル	○	
一太郎 のみのマルチシートファイル	○	
Microsoft Office 製品等の異なるフォーマットが含まれるマルチシートファイル	△	一太郎 フォーマット部分のみPDF変換します 一太郎 以外のフォーマット部分についてはPDF変換できません
パスワードが付与されたファイル	×	PDF変換のサポート対象外です
差し込みデータが付与されたファイル	×	PDF変換のサポート対象外です
アウトラインファイル	×	アウトラインを使用しない設定に変更してください
一太郎 外字を含むファイル	○	外字のインストールされている環境でのみ表示可能です
オブジェクトを含むファイル	△	サービス変換では正しく変換されない可能性があります

パスワードの設定されているファイルや破損しているファイルはPDF変換できません

Office系→PDF変換 は、サポート対象のファイル形式であっても、次のファイルはサポートしません。

- 破損しているファイル
- パスワード付きのファイル



注意

上記ファイルでPDF変換を実行した場合は、エラーが発生しPDF変換に失敗します。

エラーが発生しない場合でも、タイムアウトし処理を中止します。

Microsoft Excel 形式のファイルは各ページを1ファイルに結合してPDF変換します

Office系→PDF変換 は、ブック内のページ単位でのPDF変換はできません。

PDF変換前に、あらかじめページの削除、または、印刷領域から外してください。

長時間の使用で Office系→PDF変換 の動作が不安定になる場合があります

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform が、メモリリークすることはありません。

ただし、Office系→PDF変換 は変換対象ファイルに対応したアプリケーションを動作させますので、アプリケーション側でメモリリークが発生する可能性があります。

長時間継続してPDF変換を実施する場合は、週1回 PDF変換サーバ の再起動をしてください。

Office系→PDF変換 はマルチスレッド形式に対応していません

Office系→PDF変換 はマルチスレッド形式では動作しません。シングルスレッド形式で実行します。

そのため、連続してPDF変換を実行した場合は、順番待ちの状態となります。



コラム

連続してPDF変換を実行する場合、または、大量のPDF変換（およそ200件以上）が想定される場合は、PDF変換処理のタイムアウトや PDF変換サーバ への過負荷が原因で起こる intra-mart Accel Platform のセッションタイムアウトに注意してください。

PDF変換処理のタイムアウトを変更した場合は、intra-mart Accel Platform のセッションタイムアウトの設定も確認してください。

クラウド環境に PDF変換サーバ を構築する場合、注意事項があります

PDF変換サーバ をクラウド環境で構築する場合、事前に「[intra-mart サポートサイト](#)」へ問い合わせしてください。

Microsoft Office をクラウド環境で使用する場合、Microsoft 社に確認が必要です。

お客様の Microsoft Office のライセンス状況にも依存するため、お客様から Microsoft の営業担当者に確認をお願いしています。

お客様のフォローを行うため、上記サポートサイトに連絡してください。

HTML→PDF変換

Linux 環境では、サーバに Xvfb をインストールする必要があります

Linux 環境では、連携エンジン HTMLtoPDF をインストールしているサーバに Xvfb をインストールする必要があります。

また、GNOMEをインストールしてGUI環境を構築するなど、対象サーバにGUI環境／デスクトップマネージャーをインストールすると、本機能が動作しません。

GUI環境をインストールせずに、CUI環境で Xvfb をインストールしてください。

wkhtmltopdf との互換性はありません

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、wkhtmltopdf との互換性はありません。

wkhtmltopdf を導入している環境で、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform に置き換える場合、プログラムやPDF変換の仕組みを変更するなどの対応が発生します。

wkhtmltopdf の環境から移行する場合は、必ず事前に体験版を評価してから採用してください。

HTML→PDF変換 は intra-mart Accel Platform の画面にのみ対応しています

HTML→PDF変換 は、intra-mart Accel Platform の画面（HTML）にのみ対応しています。

また、テーマの違いなどによって、ユーザごとにレイアウトが異なる画面が出力される場合があります。

変換対象画面のURLのコンテキストルートは、ログイン時のURLのコンテキストルートと合わせてください

HTML→PDF変換 で指定する変換対象画面のURLのコンテキストルートは、intra-mart Accel Platform 環境へログインした際の、URLのコンテキストルートと合わせてください。

例：

- ログイン時のURL : <<http://imartserver:8080/imart/login>>
- 変換対象画面のURL : <<http://imartserver:8080/imart/sample>>

コンテキストルートが一致していない場合は、エラーが発生します。

HTML→PDF変換 の実行方法には制限があります

HTML→PDF変換 を IM-Workflow のユーザプログラムで実行する場合、セッション情報、および、案件情報が必要です。

- 承認ノード、または、動的承認ノードのアクション処理
- 分岐終了処理

上記処理以外では、次の手順でないとPDF変換ができません。

1. 前ノードのアクション処理等
セッション情報を取得し、案件プロパティ等で保持する
2. 当該処理
セッション情報と案件情報を指定し、ジョブを実行する
3. ジョブ
セッション情報と案件情報をもとに、HTML→PDF変換処理を実行する

上記手順に沿ったチュートリアルについては、「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform プログラミングガイド](#)」 - 「[HTML→PDF変換](#)」 - 「[非同期処理](#)」を参照してください。

リッチテキストは、途中で切れた状態で表示される可能性があります

リッチテキストが含まれるWebページをPDF変換した場合、文字・文章がページ内／フィールド内に收まり切らず、途中で切れて最後まで表示されない可能性があります。

改行／改ページは、画面上とPDF変換後のレイアウトに差異が出る可能性があります

改行／改ページが含まれるWebページをPDF変換した場合、想定していない余白ができる／ページ数が多くなるなど、intra-mart Accel Platform の画面上とPDF変換後のレイアウトに差異が出る可能性があります。

Linux 環境では、画面上とPDF変換後のフォントが異なる可能性が高いです

連携エンジン HTMLtoPDF をインストールしているサーバが Linux 環境の場合、intra-mart Accel Platform の画面上のフォントとPDF変換後のフォントが異なる可能性が高く、見た目の印象が変わってしまうおそれがあります。

PDF変換が完了するまで、ユーザの待ち時間が数秒程度発生します

PDF変換時に、Webページを読み込む時間が1～2秒ほど掛かります。

その後、PDF変換が完了するまで数秒ほど、ユーザの待ち時間が発生します。

setTimeoutSec(timeoutSec)は、API呼び出し側が待機する時間として設定してください

setTimeoutSec(timeoutSec)にて設定した時間を超過した場合、タイムアウトエラーとして例外をスローしますが、既に実行済みの変換処理は継続します。

そのため、上記APIで設定する時間は、API呼び出し側が待機する時間として扱ってください。



コラム

APIの詳細については、「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform API ドキュメント](#)」を参照してください。

セキュリティ設定

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform では2種類のパスワードを設定することができます

PDF変換時に設定可能なパスワードは、次の通りです。

- オープンパスワード

PDFファイルの閲覧を制限するためのパスワードです。 Adobe Acrobat Reader 等で開く際にパスワードが要求されます。

- セキュリティパスワード

PDFファイルに対して、編集・加工等の操作を制限するためのパスワードです。 Adobe Acrobat 等で編集する際にパスワードが要求されます。



注意

オープンパスワードのみを設定した場合、PDFビューワによっては、オープンパスワードを入力しなくともPDFファイルが閲覧できてしまいます。

そのため、オープンパスワードとセキュリティパスワードは併用して使用することを推奨します。



注意

オープンパスワードとセキュリティパスワードに同一のパスワードを設定した場合、PDFファイルを開くと付与したセキュリティが必ず解除されます。

そのため、オープンパスワードとセキュリティパスワードは異なるパスワードを設定してください。

保証規程

保証内容及び対象

この保証規程（以下、「本書」という。）並びに貴社が当社と締結した一切の契約が定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）

及び制限事項の範囲内にて貴社が本製品を利用するすることを条件として、当社は貴社に対し、本製品に同封され、

又は当社ホームページ（https://document.intra-mart.jp/library/previous_index.html?product=pd़fa）に

掲載されているマニュアルの最新版のとおり本製品が動作することを保証します。

なお、当該保証は、貴社における内部的使用を目的とする限りにおいて適用されるものです。

また、当該保証は、当社の一方的な裁量により、無償で交換若しくは修補、又はかかる本製品の対価として

イントラマートが貴社から受領した金額の返金のいずれかの方法によるものとします。

上記の対応は、正規の当社製品を購入され、適法かつ誤りなくユーザ登録を完了されたお客様のみに当社が行うもので、当社はその他の対応又は保証、特に本製品をインストールしたハードウェア、接続製品、及びそれらに保存されたソフトウェア、データ等の保証（但し、これらに限られない。）は一切行いません。

保証の適用除外

下記の場合は動作保証が適用されません。

- 貴社が、本書又は貴社が当社と締結した一切の契約に定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）
その他の制限事項の定める範囲内にて本製品を利用しなかった場合
- 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害およびその他の天災地変、公害等の外部的事情による誤動作の場合
- 合理的な使用方法に反するご利用に起因する場合
- 貴社あるいは第三者が改変・変更等及びそれらの作業を行ったことに起因する場合
- 本製品以外のソフトウェア、ハードウェア等との互換性の問題から生じる場合

免責

本製品に関する当社の損害賠償責任は、理由のいかんを問わず、本製品の「ソフトウェア使用許諾契約書」に定める責任の限定の範囲内といたします。

その他の契約との関係

本製品の保証に関して、貴社が当社と締結した一切の契約と本書の間に齟齬がある場合には、本書の記載が優先するものとします。

著作権および特記事項

intra-mart は株式会社 NTT データ イントラマートの登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本製品を使用する場合は、本製品に含まれる各ソフトウェアのライセンスについても同意したものとします。

以上